

はくさんさん

謹賀新年



今年、お祖母さんは満96歳、大洋は小学3年、采海は2年生です。

第76号 H23年正月

伊豆市 法住寺 発行

前をみてくさあ

新しい年を嬉しい気持ちで迎えています。混迷の時代に、自信と確信をもって南無妙法蓮華經を保つ喜び、皆さんと共にお唱えする喜び、何かワクワクするような躍動感を感じず

るのです。

*

今、私たちの社会には、誰もが認めることの出来る基礎となるものが求められています。経済や政治は大切にしても、胸を大きく広げることができ、心から喜び、安心して生きることが出来る、そんな抛り処が欲しいのです。

それは大自然しかないと思います。

大自然とは、地球、太陽系、銀河系、という大宇宙自然そのものであり、一日という自転、一年という公転を繰り返す、何とも不可思議で奇跡的な営みそのもの。この大自然を神と畏れ敬い、その内に自分自身を置いていくしかないと思うのです。

*

はるか遙かの昔に、この大自然で二万回にも渡り、繰り返して出現された仏さまがいます。日月燈明如来という仏さまで、その最後に法華經をお説きになったのです。

日月と云えば、太陽とお月さん。太陽と月は大自然の象徴なのです。ですから法華經は、大自然から生まれ、大自然の真実(法・ダルマ)を説いたのです。

時代がどんなに変化しても、大自然の営みは変わることなく真実であり、その真実を説

く法華經は輝き続け、人々を導き、喜びと安心を与えて下さる。

そこに想いが至った時、私たちは何と素晴らしい教えに巡り合っていたんだと、新たに元気が湧いてきて、何か、嬉しくなってきたのです。そして、この法華經の内に自分自身を置いていきたいと思ったのです。

*

あるお宅でお題目が行われ、その後の茶話で、歳をとれば孤独を覚悟しなければと言うと、反応は良くなかった。歳をとれば仲間が減る、連れ合いが亡くなることもある、体は思うように動かなる。孤独は覚悟しなければならぬ。

すると足が不自由なお年寄りが、「それでも、前を見てくさあ」と一声。

急に雰囲気明るくなり、その後の会話は、一層楽しいものになった。この方はお題目に熱心で、日ごろからの信仰が、さり気ない一言に出るんだなあと感じました。

*

このさり気ない一言、「前をみてくさあ」が、南無妙法蓮華經そのものであり、お題目は必ずしも難しいものでなく、こんなに身近にあって親しみやすいものなんだなあと思ったのです。

謹賀新年



法住寺護持会

〔総代、護持会長〕 山下 一

〔総代、副会長〕 伊東 修

〔総代〕 佐藤雄一

〔世話人〕 山下要、飯田忠、飯田政春、

室野好信、小塚順一、山下誠次、

森野健次、山田安夫、杉山修

中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕 小塚愛子

〔顧問〕 小塚勝

〔世話人〕 伊東繁春、井本正雄、山下要、

井本まつ、伊東はつ江、三田五月、

山下しづか、伊東すゑ子、伊東ちゑ子、

三田幸子、山崎まち、伊東通子、

鈴木紀一、滑川正勝、滑川美奈江、

森野一夫、小塚正司、山下清、林秀、

小塚孝夫、小塚貞夫、小塚康清、

山本宏衛、山下千代子、土屋賢吾、

佐藤雄一、佐藤秀夫、杉山しまゑ、

山本義富

伊豆連合大題目講(当山)

〔理事〕 山下要

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より



先日の法事の折のこと。

年配のおばあさんが、携帯電

話を慣れた手つきで使いこな

しているのを見かけた。お年寄りも使う時代

になったことは、承知していたが、つい「良

く使ってますね」と声をかけてしまった。お

じいさんの病気を切っ掛けに、畑にも病院に

も持つて行くようになったとのことだった。

*

その日は、そのおばあさんのご主人の法事

だった。皆さんとお茶を飲まれて、本堂に向

かっていくおばあさんを追いかけて、「おば

あさん、法要中は、電源を切っておきましよ

う。もし、法要中に携帯が鳴ったら、それは、

おじいさんからかもしれないね。そしたら困

っちゃうでしょう？」と、私は笑って言った。

「はいはい、もう切つてありますよ」と、お

ばあさんはニコニコしながら答えた。その後、

お茶の片付けをしながら、私は「何て心ない

言葉をかけてしまったのだろう」と、ひとり

反省をしていた。もし、おじいさんからの電

話だったなら、どんなにか嬉しくて懐かしくて、

涙を流したことだろう。亡くなった人の声を、

今一度聴きたいと、切に思ってきたかもしれない

人に、一瞬、思いを馳せることが出来な

かった自分を恥ずかしく思ったが、そこをサ

ラリと笑顔でかわす、おばあさんは、さすが

である。人間、歳をとるということは、言い

しれない悲しみもさみしさもあるだろうけ

れど、その辺りを超えて周りの人々にある種

の「教え」を説いてくれる。この気持ち良い

おばあさんの今ある姿は、亡きおじいさんの

おらかな温かい人柄そのものであると思

えた。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

開運星祭り

一月三十日(日)

節分、立春は旧暦の年の始め、また春の始

め、今年も『星まつり』があります。

人にはそれぞれ星宿、自分の星を持つてい

て、運氣となって表れます。そこで自分の星

を清浄にして仏さま、諸天善神のご加護を頂



き、悪い運気を払い幸運をご祈願いたします。

皆さまの星が

良く輝きますよう、厄払い、交通安全、家内安全、身体健全、商売繁盛等のご利益が頂けます

よう、ご祈祷、ご祈願致します。

昨年、ご祈願された方は、お札をお持ちください。お焚き上げ致します。詳しくは別紙をご覧ください、お申し込み下さい。

法住寺ホームページ

昨年六月に法住寺のホームページを開設し、お寺の行事、案内、境内の草花や、永代供養、寿量の会を広報し、住職のブログを載せています。

お会式の写真集や、この寺報「はくがんさん」も掲載し、拡大しカラーで読めるようにしています。殊にブログは数日ごとに更新していますので、お寺の季節の移り変わりが身

近に感じられると好評で、これまでに七千回近くアクセスを頂いています。

「寿量の会」、また「法住寺」で検索してください。

寿量の祈り 一日十円貯金を

寿量の祈り

一 大自然

ありがとうございます
南無妙法蓮華經

一 社会の皆さん

ありがとうございます
南無妙法蓮華經

一 ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます
南無妙法蓮華經

この寿量の祈りを毎日声に出していくと、自分自身が変わっていくことでしょう。

寿量の祈りを行った証として、一日十円貯金して下さい。年間約三千六百円、貯まった中から、三分の一の千二百円を寿量の会に寄付して頂きたいのです。残りの三分の二の二千四百円は、世の中を良くしていこうと活動している団体等にご自分で寄付して下さい。

トピックス

寿量の杜、整備

十一月十三日、護持会役員さん全員で、寿量の杜の整備を行って下さいました。場所は、寿量の塔の右側、道路に面した斜面で、急な為、草を刈ることもできず、また植樹もできない状態でした。そこで足場を造ってもらいました。孟宗竹を何本も使った作業は、大変でしたが、見た目も美しく出来ました。

これから紅葉などを植樹し、安らぎのある杜にしていきます。

役員の皆さん、ありがとうございます。

急斜面の足場づくり

作業後、ホッと一息



境内整備作業

年末の境内整備作業は、元村二、三班の皆さんで、表庭の枝垂れ桜の柵作り、裏入口の



榎の枝払い、第二墓地
入口銀杏伐採等を行
ってもらいました。

役員さんを中心に
皆さんで力を合わせ

ての作業は、大変なが
らも意義あるもので
した。また十二日講の
有志の皆さんが、境内

清掃して下さい、清浄な正月を迎えることが
できます。皆さん、ありがとうございます。

次の春の作業は、小川の皆さんにお願いし
ます。



洋明さんのおはなし

新年あけまして おめでとうございませう。

今年の干支は兎。今年は兎が跳ねるように
皆さんにとつて飛躍の年となり、白兎の白色
のように身も心も清浄であることを願って
おります。

*

さて、私と母親はよく似ていると言われま
す。それは容姿ではなく、よく喋ること。妻
には時々、口から生まれてきたのではないか
と言われることもあります。人と喋ることは
良いことですが、喋り過ぎたり、カッとなつ
たりしますと、余計な一言が出るのが。「口
は災いのもと」、反省しなくてはと思ひます。

また分かつていることですが、人の事
を悪く言うことは、やはり良くないこと
です。井戸端会議などで、人の悪口やあ
まり良くない噂話で盛り上がる場にいる
と、心地よくないものです。

「人の不幸は、蜜の味」とは言いますが、
その蜜には罪障を積むという、自らを滅

ぼす毒があることを忘れないようにしたい
ものです。

*

日蓮聖人は重須殿女房御返事のなかで、
「わざわざは口より出でて身をやぶる、さい
わいは心より出でて我をかざる。」と申され
ております。

言い過ぎたり、喋り過ぎたりすると、時に
その口が元で身をやぶることがあります。し
かし、その口を使わなくても、真心をもって
行動すれば、自然と幸せに包まれ、その人が
輝くという事です。

言葉数は少なくても、真心や氣遣う気持ち
を持ち、いつも人の立場にたつてものを考え
る。そんな方に出会えた時、その方がきつと
大きく美しく見えるはずで。慈悲の光明を
放つ姿、まさに仏さまに見えることでしょう。

*

今年も多くの皆さんとコミュニケーション
をとりながらも、喋り過ぎないように、こ
の口に注意していききたいものです。また言葉
だけでなく、思いやりや、真心といった相手
を思う心を持って行動出来るように、昼夜常
精進の気持ちで過ごしていききたいと思ひま
す。

御志納金「十一月〜十二月」

二十万円 清水 山下一殿 尊母十三回忌砌
十万円 函南町 塩田研士殿 尊祖母一周忌砌
十万円 元村 飯田安久殿 尊父一周忌砌